



港区立中之町幼稚園 6月 園だより

教
育
目
標

- ・げんきな子
- ・かんがえる子
- ・なかよくする子
- ・がんばる子



令和5年5月30日
港区立中之町幼稚園
園長 大橋 美都子

<http://nakanancho-kgminato-ty.ed.jp/>

時は金なり

園長 大橋 美都子

5月は新宿御苑親子遠足へのご協力ありがとうございました。学級の他の親子のみなさんと少しでも親睦の機会となっていたらうれしいです。

アジサイも様々な色に色づき始め、梅雨の気配を感じます。さて、6月10日は「時の記念日」ご存知の方も多いと思いますが、天智天皇の時代、漏刻(水時計)と鐘鼓によって初めて「時」を知らせたという「日本書紀」の記事に基づき、その日を太陽暦に換算して、1920年に制定されました。大正中期、近代化推進の情勢の中、時間厳守、時間割による行動規律、時間を節約することによる効率性の向上が近代生活の基本として位置づけられました。

さて、その時間ですが、大人と幼児ではその感覚がずい分と違いますね。幼児はまだ時間の感覚というものに身に付いていません。ついつい大人は「早くしなさい」とか「あと〇分しかないよ」「遅れるわよ」などと言ってしまうがちです。しかし、幼児は、そう言われてもどうしてよいのやら分かっていないことも多いのです。個人差もありますが、昨日・今日・明日・あさってなど過去と未来の感覚が分かるのが6歳くらい、小学校になり時計を基準にした生活習慣に慣れることで、9~10歳くらいで大人と同じ感覚になる、とも言われています。幼児は、時間の感覚で動くのではなく、起こった出来事の多さで時間の長さを推測する言わば「できごと時間」で生きているのだそうです。例えば、片付け時間になっても「もっと遊びたい」と言ったり、遠足から園に戻ってきてお迎えの時間、という時に「えー?!まだ遊んでないよ」と言ったりすることを考えると納得です。では、時間の認識のない幼児にどのように対応すればよいのでしょうか?例えば「1回だけね」と回数で伝えたり「この歌が終わったら終わりだよ」とイベントを基準にしたりすると理解しやすいと言われています。急いでほしいときには「競争だよ」とか「どっちが先に着替えられるかな?」など、やってほしいことに集中できる指示を出すことも有効です。すぐに効果が表れることではないと思いますが、お子さんの行動にイライラしてしまいがちな方は、怒るのではなく、関わり方を少し変えてみてはいかがでしょうか。そして、「時は金なり」 時間はお金と同じく貴重なものなので大切に有意義に使いましょう、という意味です。幼児にとって1日の教育時間の始まりは、とても重要です。登園後、10分あれば支度を済ませ、様々な場を作ったり、環境に関わって遊び始めたりします。最近、登園時間に遅れる幼児が目立ち、遊び出しに関われなかったり、活動に入りづらかったりする様子が見られます。そこは時間感覚のしっかりしている大人が時間を守っていかなくてはなりませんね。

6月の中之町まつりに向けて様々な活動を楽しんでいる子どもたちです!! PTAのみなさまや地域の方のお力をお借りしながら楽しいおまつりになることを期待します。



ジャガイモいくつとれたかな?



園庭工事も最終段階!
いろいろな車での作業がよく見えます。



池のハスも立派になり、トンボもやってきました。